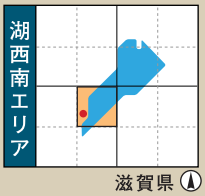
史跡
国指定

衣川廃寺跡（きぬがわはいじあと）

大津市堅田衣川　昭和52年3月8日指定



衣川廃寺は、琵琶湖が最も狭まる地点の丘陵上に建立された白鳳寺院で、建立の経緯には、大津京を巡る情勢と密接な関係があったと考えられています。しかし、残された遺構には謎が多く、ここに近江の古代史の実像を探り出す鍵が埋もれているかも知れません。

当時のできごと	
663年	白村江の戦
668年	天智天皇即位
672年	壬申の乱

衣川廃寺跡の構造

衣川廃寺から見つかった遺構は、金堂および塔と考えられる基壇と、瓦を焼いた窯の跡です。

金堂の基壇は、南北15m、東西が18m以上、高さが1.3m程の長方形で、上面から礎石を据えた痕跡がみつかっています。塔と考えられる基壇は、1辺が9mの方形で高さが1.06m程ありますが、この基壇の上からは、礎石を据えた痕跡を見つけることができなかったことから、基壇だけを造り、建物は建てられなかった可能性があります。また、いずれの基壇も基壇化粧を施さない特殊な造りです。

瓦窯は、金堂や塔の南西の斜面を刳り抜いて造られています。多くの種類の瓦を大量に焼いていたことが判明しています。このことは、金堂や塔以外の建物も造営する計画のあったことを示しているのかも知れません。



金堂基壇

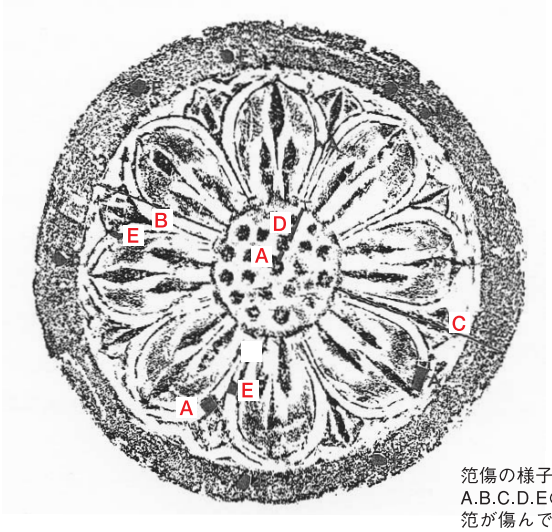


瓦窯

衣川廃寺の建立者

衣川廃寺が建立されたのは、7世紀の半ば過ぎと考えられ、大津宮（667～672）の造営とも密接な関係がうかがわれます。大津京の近辺には、穴太廃寺を始めたくさんの寺院が造られましたが（学習シートNo.005・006・016）これらの寺院が、渡来人系の氏族によって建立されたと考えられるのに対し、衣川廃寺は立地、瓦の文様などから、古くよりこの地域で勢力を持っていた、和邇氏（わにし）に繋がる系譜の氏族が中心となり、建立されたと考えられます。

衣川廃寺は、大津宮の終焉と時期を同じくして、伽藍の整備ができないまま廃絶してしまいます。穴太廃寺や崇福寺などが、その後も栄えたのと好対照を示しており、ここに古代近江の謎の一端を解く鍵があるのかもしれません。



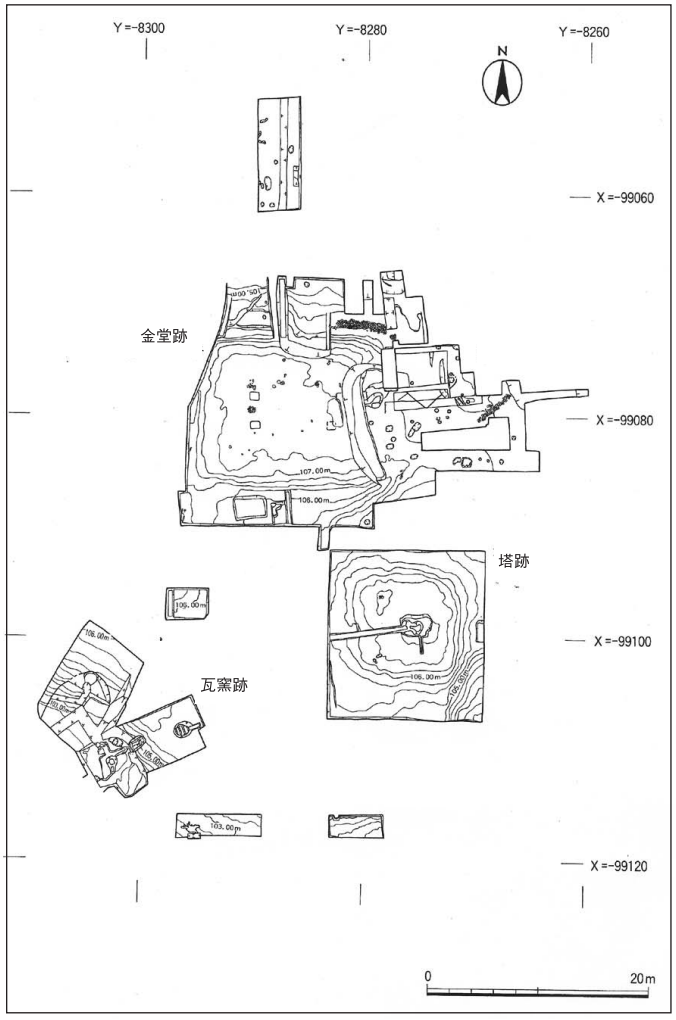
笵傷の様子
A.B.C.D.Eの順に
笵が傷んでいった

瓦の傷

古代では、軒先を飾る軒丸瓦には、蓮の花の模様が彫られるのが普通です。この模様は木に掘り込んだ笵（型）を造り、ここに粘土を押しつけて模様を写し取ります。何回も使ううちに笵に傷が入ったり割れたりし、これを補修した跡が瓦に現れることがあります。衣川廃寺跡で見つかった図の瓦には、多数の傷が認められ、この傷の様子を比較することにより、瓦の作成の細かな時期を推定することができました。



塔基壇



衣川廃寺跡全体図

関連する文化財

穴太廃寺跡（大津市）	学習シートNo.016
南滋賀町廃寺跡（大津市）	学習シートNo.006
山田寺（奈良県明日香村）	蘇我石川麻呂の発願による、法相宗の寺院
頭塔（奈良県奈良市）	奈良時代の土塔。多数の石仏を配し、一種の曼陀羅を表現している

もっと深く知りたい

飛鳥資料館　☎0744-54-3561　奈良県高市郡明日香村奥山601

大津市歴史博物館　☎077-521-2100　大津市御陵町2-2

衣川廃寺跡へのアクセス　JR湖西線　堅田駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔史跡衣川廃寺跡調査整備報告書〕大津市教育委員会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月